

あおば災害ネット「支えあいカード」の利用について

災害時に一人では避難が困難な要援護者（高齢者や障害者等）を支援するために、青葉区では要援護者の情報をあらかじめ地域で共有するための仕組みとして「あおば災害ネット」を推進しています。

登録を希望する要援護者の「支えあいカード」を情報共有のために関係者にお渡ししています。要援護者支援には、民生委員、自治会・町内会、地域防災拠点、区役所が日頃から連携しながら体制を整えることが大切です。下記概要と別添本市発行の取組事例集を是非ご一読いただき、要援護者支援のためにご活用いただけますようお願いいたします。

1 要援護者に地域の支援が必要な理由

過去の大きな災害では、生き埋めや閉じ込めから助かった人の大半が自助・共助により命を取り留めました。普段在宅で生活している要援護者は自助が難しいケースが多いため、発災直後においては、共助＝地域による助け合いが特に大きな意味を持ちます。

2 支えあいカードの役割

近隣同士のつながりが強く、生活面での協力・助け合いができていた時代には不要のものでしたが、地域のつながりの希薄化・弱体化が進んでいる現代においては、「災害時における地域での助け合いのきっかけづくり」が支えあいカードの大きな役割です。

3 支えあいカード関係者それぞれの主な役割

- (1) 民生委員 → 支えあいカード作成・更新、関係者への（写）の配付
- (2) 自治会・町内会 → 助け合いの体制づくり、発災時の助け合い
- (3) 地域防災拠点 → 発災時の助け合い
- (4) 区役所 → 支えあいカード原本の保管

4 支えあいカードの利用例

(1) 平常時

ア つながり作り

- ・ 訪ねてみる（顔合わせ）
- ・ 地域の催しへの参加声かけ
- ・ 登録者情報入りのマップを作成する 等

イ 防災訓練

- ・ 防災関係者（担当者）による要援護者の居住地確認
- ・ 要援護者宅から地域防災拠点までの経路・避難方法の確認
- ・ 地域防災拠点における要援護者の居住スペースの確認 等

(2) 発災時

可能な範囲での要援護者の安否確認、救助 等